

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾ゆうゆう笠岡 1 組			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数)	46
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた丁寧な支援が徹底されており、アセスメント・モニタリング・振り返りまで一貫した支援サイクルが機能しています。保護者からも「特性に応じた支援」「安心して任せられる」といったお声をいただきました。	視覚支援や構造化環境づくりを重視し、スケジュール掲示、イラスト、絵カード、50音表などを活用して分かりやすい環境を整えています。	支援の質をさらに高めるため、職員の個別研修や専門知識の習得を促進していきます。
2	職員間の情報共有体制が非常に整っており、毎日のミーティングや記録、振り返りを通してチーム支援が機能しています。支援前後の打ち合わせが徹底されている点は大きな強みです。	活動プログラムが固定化しないよう、毎月チームで企画会議を行い、季節感や新しい体験を取り入れた活動を計画しています。	地域交流や事業所間交流を増やし、社会参加や対人経験の機会を広げていきます。
3	保護者との連携が丁寧で、コドモンや送迎時のフィードバック、面談を通じて日々の様子を共有しています。「楽しんで通っている」「満足している」という声が多く、満足度が非常に高い事業所です。	専門職（作業療法士・保育士・心理職等）が連携し、多面的な視点で支援を行っています。専門性を活かした支援体制が整っています。	保護者への情報発信や周知をさらに丁寧に行い、支援内容や安全対策の理解を深めてもらう取り組みを行います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数や活動内容によってはスペースが手狭に感じられる場合があります。	施設構造や利用人数の関係で、物理的なスペースに制約があります。	活動グループの編成や空間の使い分けを工夫し、安心して活動できる環境づくりを進めます。
2	地域住民を招いた事業所行事など、地域に開かれた取り組みは十分とは言えません。	地域交流は安全面・調整面の配慮が必要であり、計画的な実施が求められます。	地域イベントや外部交流を無理のない範囲で計画的に取り入れます。
3	学習支援について「個別性をより高めてほしい」という保護者の声の一部があります。	学習支援は子どもの特性差が大きく、個別対応に時間と人員が必要です。	学習支援はスモールステップで成功体験を積める支援を継続し、個別性を高めていきます。